

## 指標案委員意見一覧《子育て・教育分野》

分野(中項目)	指標名	設定理由	委員名
子育て支援	待機児童数	現在の待機児童数とこれまでの対策で減少した人数	伊與委員
	児童虐待	区内で児童虐待があるのか、またあれば件数 どのような対策をしているか	伊與委員
	ひとり親について	ひとり親対策にどのように取り組んでいるのか	伊與委員
	赤ちゃん訪問だけでなく転入者訪問数	転入してくる子育て世代家庭の訪問もすることで、いろいろな公共サービス案内だけでなく、家族構成やどんな方かを理解することで、DVや虐待を未然に防ぐことが出来ると考えたため。	上野委員
	民間企業の保育所数と区営保育所数	区営の保育所を増やすより民間の保育所を誘致支援し増やすことで、横浜市のような短期間で待機児童を解消できると考えたため。	上野委員
	区営の幼稚園や保育園の所得連動保育料金の割合	民間の保育所の進出を拒んでいる一つの要因として、所得に連動していない区営保育所が多く存在していることがあげられます。低所得の方の支援は良いのですが、知り合いで、高収入でありながら区営の幼稚園に通い、有名私立小学校合格にむけて多額の幼児教室費用をかけているご家庭があります。このお子さんの区営幼稚園の維持費が区税でまかなわれている事は、区政としても良くないと思います。民間で出来るところに区税を使う必要はないと思います。(預かり施設も同様です。)	上野委員
	区職員の育児休暇取得率(男女別)	成澤区長が育休を取って話題となりましたが、区職員全体の動向を見れば、区総体としての取り組みの真剣度がわかるのではないかと	小林(省)委員
	こんにちは赤ちゃん訪問事業の訪問率(継続)		小林(博)委員

分野(中項目)	指標名	設定理由	委員名
子育て支援	子育てひろば事業の活用件数	子育てにおいて、子どもが遊ぶ場所や保護者が仲間といっしょに会話をする場所が必要である。その有効な場所としての子育てひろばが活かされているかを把握する有効な指標であると考え	小林 (博) 委員
	待機児童数	子育てと仕事の両立を支援する上で、喫緊の課題であり、必要な保育サービスを提供できる環境整備が出来るかを把握するのに適した指標と考える。	小林 (博) 委員
	区内認可保育園および認証保育園等の受入れ可能児童定員数(人数)の増加とそれに対する応募実数の推移。並びに区内の未就学児人口の推移対 23区内の平均的な出生率。	横浜市の「待機児童数ゼロ達成」がしばしばマスコミにも取り上げられ、待機児童数が少ない方が子育て支援がうまくいっている自治体という印象があると思います。 しかし、数年のスパンで見ると、自治体によっては定員数が上がると応募数は定員の増数割合よりも大きく増加し、「待機児童数」で見れば減らない可能性もあります。単一の指標では実態が見えにくく施策の効果を測りきれないと考えました。実体験からも、①認可もしくは認証保育園に比較的に入りやすいといった口コミ等の情報があること、②家賃等経済面の負担増、交通の利便性等を比較検討してでも魅力的なところであること、であれば、他の自治体から引っ越してくる子育て世代も多いとも思われました。	高橋委員
教育	子供達の地域活動参加人数。課外学習実施校と実施回数	自ら学び考える子に育てるためには、机上学習だけでは育ちません。子供達の地域活動は、防災防犯地域交流だけでなく、身近な活動が子供達に自信と行動達成感覚を養わせ、自分で考え行動する子にそだつと考えるため。	上野委員
	不登校の子供達の原因理由の指標	不登校になってしまう子供達の家庭や生活、性格を調査することで、変化に対応できる心身の強い子にそだてる教育ができると考えたため。親の共働きによる夜型生活の弊害や幼児期のふれあい時間の少なさからの精神の弱さ。不登校は学生時代だけですが、成人になって、ニートやうつ病の原因にもなるため。	上野委員

分野(中項目)	指標名	設定理由	委員名
教育	いじめ発生件数	いじめは人権を侵害するばかりではなく、自殺という命を奪うことにもなりかねない重要な課題である。いじめを未然防止するには早期に発見し早期に対応する必要がある、そのために実態を把握し、それを減少に導くことが大切である。そこでこの数値が適した指標であると考えた。	小林 (博) 委員
	学力状況調査を活用した授業改善のための研究授業の取り組み実施件数	学力調査の結果の経年変化の推移は大切な視点であるが、同時に調査を活かした教員による授業改善が重要であることから、学力向上に向けて、この数値が適した指標であると考えた。	小林 (博) 委員
	学校支援地域本部事業の地域関係者による学校支援のべ件数	地域関係者のボランティア等による学校の教育活動に対する具体的な支援が重要である。このことから、学校と地域が連携して学校教育を充実させるために、この数値が適した指標であると考えた。	小林 (博) 委員
	アレルギーがある児童・生徒に対する給食の誤配膳の回数	アレルギーがある児童・生徒に、誤ってアレルギー対応ではない給食を配膳してしまう事例が目立ち始めている。それを防ぐ方策として、適切な指標であると考えた。	小林 (博) 委員
	区立中学校生徒数	区立中学校の選択制がスタートして数年が経過しました。各校が特色ある教育活動に取り組み、生徒会も近隣小学校にPR活動をする等、生徒数増加に努力しています。学校の立地や設備、部活動の有無等、選択理由は様々ですが、公教育でありますから、何処の中学校に入学しても等しく教育を受けられる訳で、比較的少人数の中学校生徒数の増加を願っています。文京区では以前から区立小学校卒業生の半数近くが受験をし、区立中学校離れの傾向にあります。今年度は、夏休み中に2回、合同説明会が開催されますが、幼・小・中の連係教育が生徒数増加に反映される事を期待しています。そこで、区立中学校の生徒数の推移を指標として、連係教育の成果を表すひとつの形にします。	武智委員

分野(中項目)	指標名	設定理由	委員名
教育	<p>(個が輝き、共にいきる教育の推進の指標として) 個別に特別な支援を必要とする生徒に対する支援実施の割合。</p>	<p>前の3年間では、不登校の児童・生徒の出現率を指標としていましたが、不登校になってしまう児童・生徒には必要な支援が受けられない状態が継続したことの結果として不適応を起こした事例も多いと考えます。不登校になるのを未然に防ぐ方がよほど児童・生徒の幸福につながるでしょうが、とはいえ「未然に防いだ」というのは数値化不可能でしょう。</p> <p>個々の生徒のニーズを把握し、ニーズに見合った支援を実施できた割合というのが一つの別の指標として考えられます。しかし、個々の児童・生徒のニーズを把握するのにも多くのリソースが必要であるし、個別に支援が必要だと判断されても支援を受けるかどうかは保護者の判断にゆだねられるし、個別の支援を実施するのにもまたリソースが必要であるから、指標とするには実行可能性が低いかもしれません。チャレンジングな指標として提案してみました。</p>	高橋委員
青少年の健全育成	在宅預かり制度	<p>昔は、近所の気心の知れたおじいちゃんやおばあちゃんがいて、親には話せない事や先人の知恵を学んでいた良い時代の風習を現代によみがえらせる方法が良いと考えたため。災害時などに助けられなくても「気にするおせっかい制度」として青少年の家庭と高齢の家庭1件づつを結びつける案や青少年の宿題活動として近所の高齢者のお宅を調査することからでもよいと思います。</p>	上野委員
	社会を明るくする運動の活動にかかわった人の人数	<p>社会を明るくする運動に多くの人がかかわり、テーマにせまることが大切で、そのことによって、趣旨の達成に近付けることができると考える。このことから、この指標が有効であるとした。</p>	小林(博)委員
	子ども110番ステッカーの協力者数(継続)		小林(博)委員